

定例研修会

日時：平成21年3月1日(日)

場所：東京ステーションコンファレンス



今野 賢克 (宮城県)

3月1日(日)に東京ステーションコンファレンスで行われた定例研修会について報告いたします。当日は小雨がばらつく生憎の天気でしたが、多くの先生方が出席されました。午前には4名の会員発表、午後は九州歯科大学歯学部教授の細川隆司先生による特別講演でした。

午前の会員発表のトップは小嶋榮一先生で「温故知新としてのDental Implantの進化論30年の臨床を語る」の題で発表されました。当会初代会長である乙部朱門先生が約20年前に手がけた患者さんを小嶋先生が再び治療を行った症例は、日本におけるインプラント治療と当会の歴史そのままを見せていただいているような印象を受けました。

塩路昌吾先生は「インプラント埋入後口唇麻痺の経験」の題で発表されました。下顎8番埋伏抜歯やオトガイ孔付近の下顎神経に近接したインプラントが原因で口唇付近に知覚麻痺がでた症例に超短波治療器を使用することによって改善した報告でした。

塩山秀哉先生は「インプラントを用いて咬合再構成を行った一例について」の題で発表されました。LOT、歯周外科、インプラントなど様々な手技が盛り込まれたフルマウスの症例で非常に見応えがありました。

中野喜右人先生は「インプラント捕綴におけるセファロ分析の活用」の題で発表されました。セファロの様々な計測値を参考して診断しているとのこと、前歯の歯軸や咬合平面等についても骨格形態を考慮しながら決めていくとのことでした。

午後の細川隆司先生による特別講演は、2題ご講演していただきました。前半の「(社)日本口腔イン



プラント学会認証医/専門医/指導医資格申請・取得の注意事項—知っておかねばならない重要ポイント—の講演では、学会の役員をされている立場から面接時のポイントや、資格申請に絶対必要な資料、論文の書き方まで多岐にわたり詳細にお話いただきました。また、数年ごとに細かな規定が変更になっているようなので学会誌などで確認しておいたほうが良いようです。

後半の「ミニマルインターベンションインプラント治療—低侵襲手術の最新術式と臨床エビデンス—」では、イミディエートローディングや即時埋入を行う際のリスク分析から注意点、咬合の与え方など多くの症例を通じて説明していただいた。以前の治療に比べて患者さんと関わる時間が短くなってきているので、インフォームドコンセントをよりしっかりしなければいけないとの言葉が印象的でした。

今回、定例研修会に初めて参加させていただきましたが、経験豊かな先生方の話を聞いてとても良い刺激を受けました。定例研修会などにできるだけ参加して診療の質の向上に努めたいと思います。